

Monthly  
Company  
Magazine

**ONDO**

月刊 おんど

February 2月  
No.521 2021

**ウチヤ・サーモスタット** 株式会社  
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL: 048-955-4181

FAX: 048-956-1310

E-mail: info@uchiya.co.jp

## デジタル社会との融合で本当に必要なこと！

令和3年1月吉日

社長 清水 澄人

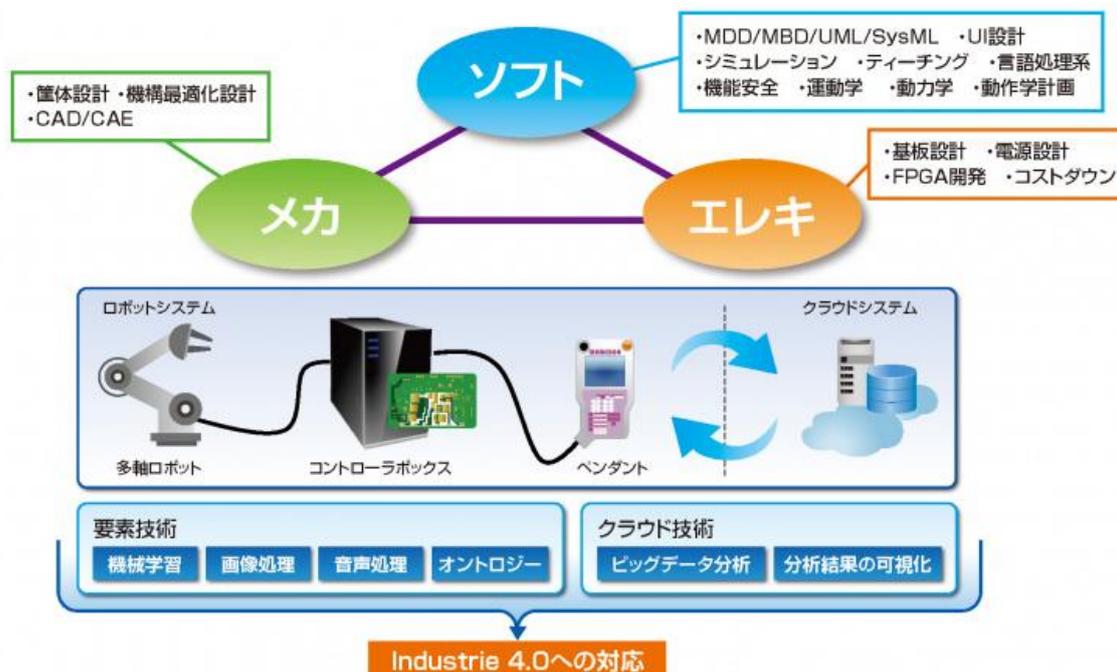
コロナ禍の蔓延で予断を許しませんがお互いにもう暫くは我慢の時の様です。さて、バイメタル式サーモスタットの将来性に関して、私にある方からコメントを頂きました。皆さんの理解を深める為に紹介して見ます。

「バイメタル式サーモスタットが将来IT産業世界の中で半導体とどうやって融合して行くべきかが何となく分かりました。何となくと言う表現を使ったのは小生の現在の知識では到底及ばない範疇の分野が広がっているからです。メカの世界はデジタル世界の中に融合してこれからも存在し続ける事が出来る、つまりテクニカルでの両者共存すべき新しい時代が到来したと理解致しました。」とのコメントです。

半導体との共存に関しては、元々は人類の最先端技術の結集は航空宇宙産業であり、特に飛行機は一機で300人～400人の人命を預かる機械と半導体の融合、即ちメカとソフトですね、殆どの装置は半導体を介して動いていますが、この半導体が故障した場合にウチヤ社のサーマプロテクターが一機に30個程搭載(アイスプロテクションシステム)されています。欧州エアバスで20年以上、米国ボーイングで15年以上の実践があります。この事が私をして半導体と共存可能と判断させた根拠です。おそらく、この事でこれに気づき、この市場を開拓しているのは世界の中でも今の所はウチヤ社だけでしょう。



既に、この理屈(説得しました)で日本の殆どのロボットメーカーに採用されています。ファナック、安川電機、川崎重工、三菱電機、不二越、等々です。又、医療機器のスイッチング電源で例えば、コロナ感染者に投入される人工呼吸器用には、電子制御サーミスターの隣にウチヤ社のサーマルプロテクターがバックアップで搭載されています。元々はサーマルプロテクターを廃止してサーミスター温度保護に取り替えたのですが、これが壊れて機器が暴走した為、取った(廃止)筈のサーマルプロテクターをサーミスターセンサーの隣に追加で取り付けすることになりました。これらは一部の例ですが、既にウチヤ社はこの分野で先行して売上を上げています。世界的には確実にバイメタル式サーモスタットは淘汰され、5社程度しか生き残れないと思っています。その中にウチヤ社が残れるかは、普通に売っていたのでは無理です。従って、半導体と共存可能な製品をこれからドンドン市場投入します。既に4件の新製品開発を3年以内に完成させるプロジェクトを進めています。来年の4月にはその第一弾を市場に出します。



さて、おんど1月号の最後に人間はデジタル改革をツールとして逐次するのであり、人間をデジタル改革することは出来ない。寧ろ、本質的な人材育成がウチヤ社の将来性にとって、最も重要であることを書きました。最近、私はウチヤ社スタッフの思考力低下と、特に今日はコンピューター、インターネット及びスマホゲーム、等々に依存し過ぎる為、自分の脳で思考して物事の本質を的確に捉え、適切な判断をして仕事を遂行することが薄弱になって来ている。との危惧を強く感じています。

そこで、実践して欲しい、物事の本質を捉える思考の三原則について説明したいと思います。この三原則は東洋哲学の陽明学者で有名な安岡正篤氏が広めたことで、日本人の経営者の方や政治家など大事にしている人が多いと言われています。

- ① まず一つ目が目先に捉らわれないで、できるだけ長い目で見ること。会社としても、長期的な目線を持つビジネスパーソンを高く評価する傾向にあります。大成する人に10年思考を持つ人が多いのはそのためです。真の意味で成果を残せるビジネスパーソンを目指すなら、一時の成果や評価にとらわれず、長期的に見て種を蒔き、計画的に利益を上げられる人材を目指しましょう。
- ② 二つ目、物事の一面にとらわれないで、できるだけ多面的に、できれば全面的に見ること。起きている事象の逆を観る、光ある所には陰がある、陰陽理論もこの一つです。心眼

## 大局観を意識するための自戒のツール

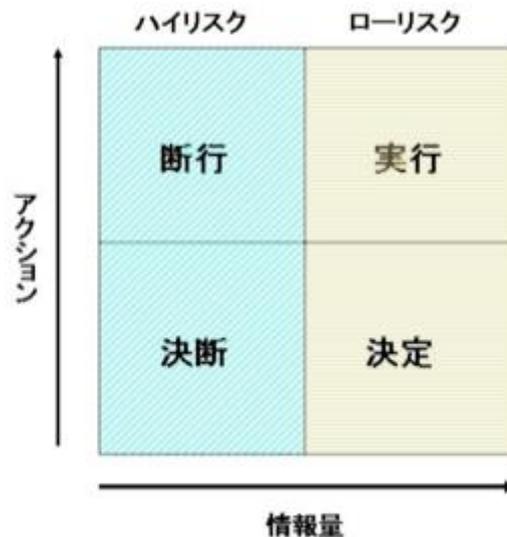


を働かせて見ることです。

③ そして三つ目が、何事にも枝葉末節にとらわれず、根本的に考えるということです。表面に現れている事象にのみ心を傾けるのではなく、例えば樹々の果実や花々に目が行きがちですが、地中に有って、その果実や花々に栄養や水分補給を司る根っこが、本当の意味で樹々の成長や寿命を脈々として担っていることを認識することと同じです。人もそうですね、花が綺麗とか、枝振りが良いとか、人で言えば、綺麗とか利口だとかよりも、根や幹が人間として出来ていることの方が本質です。

次に思考に於ける知識 → 見識についてです。見識と言うのは、いろんな経験から知識が出来、その人の人間内容がものを言うもので、これが本場で、こうあるべきだ、なすべきだと決断が出来ものです。その見識を実行する場合に抵抗勢力や反対意見が必ず存在しますが、実際に問題にぶつかって、いろんな矛盾や抵抗に鍛えられ、きびきびとした実行力を伴うことを、胆識と言います。知識は持っているが、人間の修養などしてない、人間そのものができておらない、修養をして器量が出来てくると、知識が見識になり、そして活きた判断、活きた行動、をするには胆識の修養が必要となります。この胆識を普段から修養する工夫が要ります。

「アクション×情報量」のマトリックス



見識(知識+自分の考え方)+決断力+断行力=胆識

そして、賢は賢なりに、愚は愚なりに、それを何十年も継続していれば、必ずものになる。どこの社会、どこかの業界にあってもその仕事を通じて、世の為、人の為に貢献するが大事なことです。

以上

# 新型コロナウイルス感染への緊急事態宣言の再発令

令和3年1月15日

社長 清水 澄人

新規新型コロナウイルス感染が拡大、それに伴う2度目の緊急事態宣言が11都道府県に発令されており、早期、ワクチン接種や治療新薬の確立が望まれますが、其れ迄の期間は改めて各個人・家庭・会社・社会生活で守るべき基本的な対応方法を記載します。(厚生労働省資料参考)

## 1. 新型コロナウイルスは、人の体のどこから侵入して感染するか？

このウイルスは、人の「目、鼻、口、」の粘膜から侵入することで感染する。まず、このことをしっかりと理解する。傷のない皮膚から侵入することはない。

感染対策を全くしていない場合、「目、鼻、口、」の粘膜から下記経路で感染する。

1) 感染した人と近距離(約1m以内)で長時間(約15分間以上)会話をすることで、感染した人の吐息や咳のしぶきに含まれるウイルスが「目、鼻、口」から侵入することで感染する。数分以内の会話は低リスク。また、感染した人の横をすれ違うだけでは感染しない。

2) 空気が乾燥して湿度39%以下になるとウイルスが軽くなり、感染者の吐息や咳に含まれる

ウイルスは遠くまで飛んで行き、人に吸い込まれる。換気と加湿を良くする必要がある。

3) ウイルスは、金属やプラスチックの表面で最大3日間生存する可能性があり、ウイルスが付着したドアノブや手すりなどを手で触り、そのウイルスがついた手で無意識のうちに自分の「目、鼻、口、排泄部」の粘膜に触れることで感染する。(ある調査では、人は無意識のうちに1時間に約10回「目、鼻、口」の粘膜に触れるそうです。)また、感染者の使ったタオル、食器などを共用することで感染する可能性が高い。

## 2. 感染するとどのような症状がでますか？

発熱、倦怠感、喉の痛み、咳、筋肉痛、食欲の低下など、普通の風邪やインフルエンザと同様の症状がでます。臭いが分からない、味覚の異常を訴える人もいます。感染しても約8割の人は無症状で、周囲の人に感染を広げている可能性が示唆されている。(人混みの中でマスクが必要な理由)。症状が少し進むと、動いた時の息苦しさを感じることがあります(この時はすぐに受診をしないと重症化するリスクが高まる)。

## 3. 感染を予防する方法は？

・「目、鼻、口、」からウイルスの侵入を防ぐことが、感染の予防になる。

①「三密」を避ける「密集」、「密閉」、「密接」の三つの「密」を避けて生活する。

② 人混みに入る時は必ずマスクを着用、人混みに入る時(スーパーに買い物に行く、電車に乗る、バスに乗るなど、近距離に他の方がいる時)は、必ずマスクを着用(鼻と顎をしっかりカバーすること)。近距離で会話をする場合、お互いにマスクを着用していれば感染を予防できる。マスクに加えて花粉症用のメガネなどを着用するとさらに予防に役立つ。

③「目、鼻、口、」を不用意に触らない。「目、鼻、口」を不用意に触らないようにする。「目、鼻、口、」を触るのであれば、必ずその前に手洗いを徹底する(薬用石鹸と流水、消毒用アルコールの両者が有効)。

- ④ 部屋の換気を心掛ける。(窓や扉を少しずつ継続して開け、定期的に広く開けるなど)
- ⑤ 毎日検温する。毎日本温を測定し体調の確認をする。発熱や風邪症状があるときは、外出を避けて自宅で療養する。発熱が続いたら(基礎疾患のある人は2日程度、基礎疾患のない人は4日以上)、直接医療機関を受診する前に近くの「受診相談所センター、帰国者・接触者相談センター、地域の保健所」に電話で相談し、アドバイス(PCR検査)を受ける。
- ⑥ 適度な運動を心掛ける 外出を自粛するとはいえ、ずっと家に閉じこもっていると体力と免疫力が落ちるので、家の周りを散歩するなど、適度な運動を心掛ける。散歩、通勤中屋外を歩くときなど、屋外で2m以内に複数の人がない場合、感染する可能性は低く、マスクの着用は必須ではありません。

4. 万一、家族の中に感染した人が発生した場合は?  
 以下のような感染対策をすることが勧められている。

- (1) 可能な限り部屋を分ける。
- (2) 家の中でもできる限り全員がマスクを着用する。
- (3) 小まめにうがいと手洗いをを行う。
- (4) できる限り換気を行う。
- (5) 感染した人が触れたドアノブ・便座などの消毒を行う。
- (6) タオルや食器の共用を避ける。
- (7) 感染した人の入浴を最後にする

## 感染リスクが高まる「5つの場面」

### 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



### 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



### 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



### 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



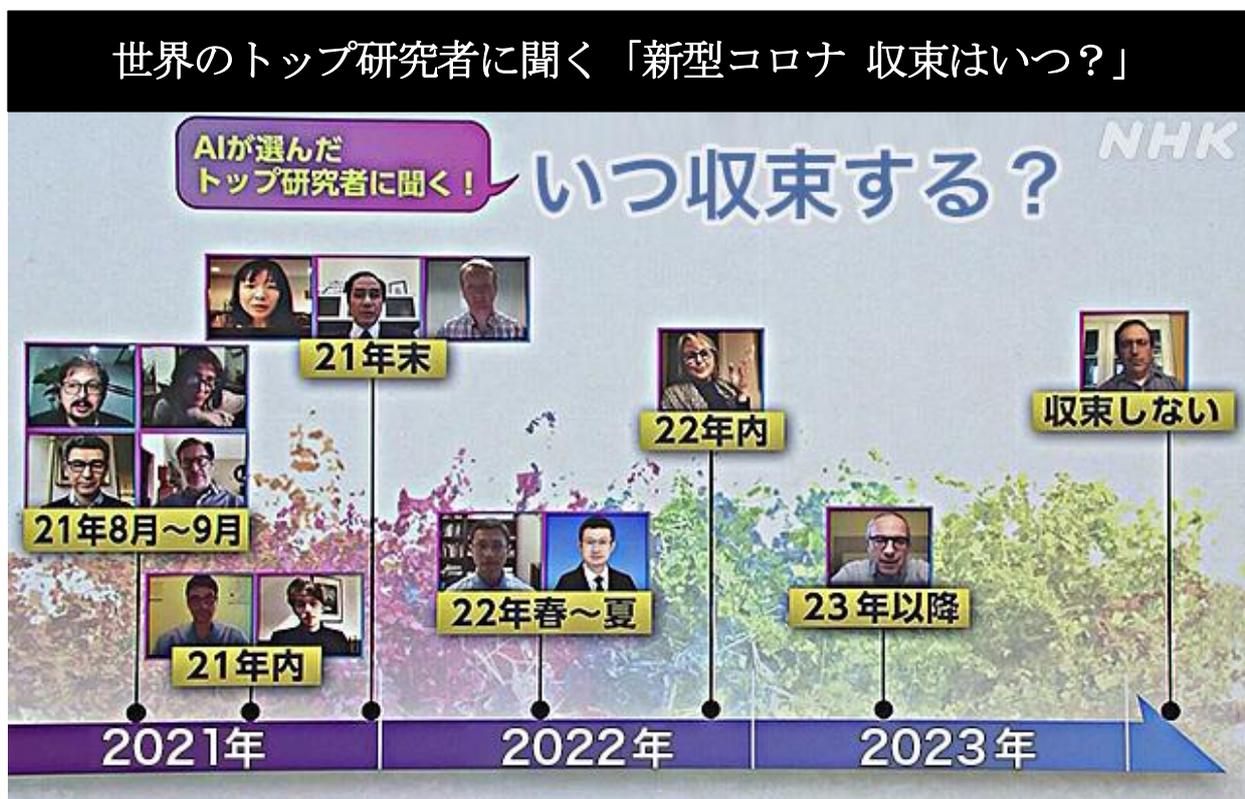
### 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



## 新型コロナウイルス感染対策に世界のトップ研究者が提唱する対策キーワード

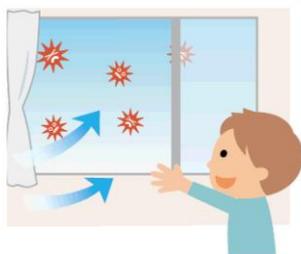
1. 消毒技術 ← ウチヤで導入済
  - ① 水及び石けんによる洗浄 → モノ、手指
  - ② 熱水 →モノ
  - ③ アルコール消毒液 →モノ(雑品、医薬品・医薬部外品)、手指(医薬品・医薬部外品)
  - ④ 次亜塩素酸ナトリウム消毒液(塩素系漂白剤) → モノ(雑品、医薬品・医薬部外品)
  - ⑤ 洗剤(界面活性剤) →モノ(雑品、医薬品・医薬部外品)、手指(未評価)
  - ⑥ 次亜塩素酸水(一定条件を満たすもの) →モノ(雑品)
2. 紫外線 (紫外線殺菌装置) ← 日本の技術で病院にて実用化が始まっている  
日本で実用化に成功、紫外線 波長 222nm ナノメートル(皮膚癌を起こさないレベル)の紫外線 10秒で無害化、コロナウイルスに効果的、殺菌用。
3. コロナウイルスの不活性化 (オゾン発生装置、光触媒装置) ← ウチヤでも導入開始  
低濃度オゾン(0.000017%)による酸化力で無害化。
4. 蒸発 ← 加湿器を増強する  
ウイルス飛沫は、湿度の高い状況ではすぐに地面に落下してしまいますが、乾燥すると遠くまで飛んでいく事がわかっています。湿度が 39%以下になるとウイルス飛沫の水分が蒸発して軽くなるため、落下速度はゆるやかになり約30分間、空気中を漂うことになる。湿度 60%と比較すると湿度 30%では 2 倍遠くに飛ぶ、乾燥するほど広い空間にウイルス飛沫が広がる。
5. 加湿 (加湿装置) ← 加湿器を増強する  
空気が乾燥すると、喉の粘膜が乾燥して血流低下を引き起こし、免疫低下の原因となり喉に炎症をおこしやすくなる。50%~60% 湿度で大気中の飛沫を 50%落とし、喉の線毛が活発になりコロナウイルスを排除する。こうして、室内を 40%以上に加湿する。



以上

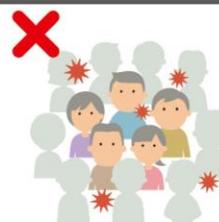
# 新型コロナウイルス 職場における「4つ」の対策ポイント ～ 職場での感染にご注意ください！～

換  
気



室内では  
こまめに換気をしましょう

密



席や更衣室で、人と  
適切な距離をとりましょう

共  
用



複数人での備品の共用は  
できる限り避けましょう

休



体調が悪い場合は、  
軽めの症状でも  
休みましょう・休ませましょう

また、感染防止の3つの基本である ①**身体的距離の確保**、  
②**マスクの着用**、③**手洗い** の徹底もお願いします。

「**接触確認アプリ**」（COCOA）ご活用をお願い



職場のみんなをまもるため、  
**新型コロナウイルス接触確認アプリ**※のインストールをお願いします。

※このアプリは、新型コロナウイルス感染症の感染者と接触した可能性について、  
通知を受け取ることができる、スマートフォンのアプリです。



詳しくは厚生省特設サイトへ

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をおねがいします

# 3つの「密」を避けましょう!

①換気の悪い  
密閉空間



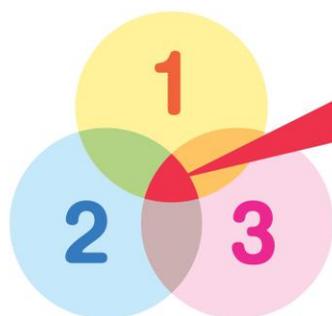
②多数が集まる  
密集場所



③間近で会話や  
発声をする  
密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。  
日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろう場所が  
クラスター(集団)発生の  
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には  
消毒などを行ってください。



厚労省 コロナ

検索

